



発行者: 社会福祉法人じねんじょ  
 発行日: 令和2年9月1日  
 TEL: 083-252-2227  
 FAX: 083-252-2259  
 E-mail: jinenjo@jinenjo.or.jp  
 http://www.jinenjo.or.jp

# 大地

(じねんじょ通信)

VOL.

34

2020/09

## 新しい施設に向けてGO!

新型コロナウイルスの感染が始まり半年経過しました。一旦は沈静化したように見えたが、6月以降、再び感染が拡大しています。このような時節ですが、皆様に置かれましてはお元気でお過ごしのことと思います。

前号で春開設する新施設のことについて触れましたが、施設の紹介とその後の進捗状況についてお話しします。新施設は、主に総合支援学校高等部卒業後の受け皿を増やす生活介護事業の施設です。現在の生活介護施設は、本体の建物4階のじねんじょ、だいち(稗田中町の下関スイミングクラブの隣)、ひなた(おくぞの耳鼻科の建物5階)の3カ所に分散していますが、新施設開設後は、じねんじょとだいちとひなたを統合し受け入れを増やし主に2カ所で活動します。

本体施設やかねはら小児科と道路を隔てた極近距離に位置し、健康管理、日々の活動、利用者や職員の相互交流も行いやすくなります。また、道路に面した側に交流スペースも盛り込んでいますので、地域の人達との交流が行いやすい施設になります。

田尾設計さんをお願いし、職員の様々な意見を取り込んでいただいた設計図ができ上がり、7月の入札により建築業者が決定しました。9月に起工式を行い、工事が始まります。令和3年2月末に完成し4月から利用開始の予定です。

建設費用は、約1億3千万円が必要です。建設費の多くは長年コツコツ貯めてきた自己資金で賄いますが、自己資金だけでは足りないので金融機関からも借り入れます。また、今後の安定的な運営のためには借り入れをできるだけ少なくする必要があります。経済状況が厳しい状況のなか心苦しいのですが、ご寄付もお願いしなければなりません。

皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人じねんじょ 理事長 金原 洋治

## 感謝する気持ち

新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでの生活が一変してしまいました。緊急事態宣言が解除され少しずつ経済活動も段階的に緩和されてきています。

新型コロナウイルス禍の中、私たちの生活を支えてくれている人たちがいます。医療従事者や介護支援の福祉従事者、危機の対応にあたる公務員、公共交通機関の職員、物流事業者などを海外では、「エッセンシャル・ワーカー」などと言われているようです。「最前線」で働いている人達に対して、感謝と尊敬を表しています。仕事や生活に不安やストレスを感じている方も少なくない中で、そのような感謝、尊敬の「気持ち」が生まれるということは、世の中は捨てたものではないなと思います。

コロナ禍のなかでも、梅の花が咲き、桜、紫陽花、向日葵が何事もないかのように季節は移り変わります。しかし、世の中は、新規の感染者の発生状況が落ち着くこともなく、不安も続いています。コロナ禍以前の生活に戻ることは難しく、マスクの着用、人との間隔(ソーシャルディスタンス)を保つ、仕事ではWeb会議など、生活の仕方に変化が見られます。そのような変化に戸惑う方も多いと思われます。不安定な世の中だからこそ、「感謝」の気持ちを忘れずに、何か不安なことがあれば、周りの人に頼り、支え合い、変化の激しい時代を乗り越えていきたいものです。

社会福祉法人じねんじょ センター長 石塚 忠志

## じねんじょ年間行事の中止又は変更について

新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、例年の行事は中止または形式を変えて実施することになりました。内容は以下の通りです。

●中止する行事 ・じねんじょフェスティバル2020

●形式を変えて実施する行事 ・じねんじょ公開フォーラム(開催時期未定) ・成人を祝う会(生活介護事業所じねんじょの活動として開催)  
 その他、その時々状況に応じて行事や日中活動も見直しを行っていきたく思います。ご理解とご協力をお願いいたします。

## 生活介護じねんじょ 本体



幡生宮ノ下近隣公園に花見に出かけました。手の届く所に桜が咲いていたので、花に触れたり匂いをかいだりして桜の花を満喫しました。



じねんじょ屋上で大型絵本! 普段している活動でも、青空の下での絵本は気分転換にもなり、みんなが楽しんでいる活動の一つです。



アートビレッジ39パステル 絵画展に出展する作品に取り組んでいます。色を感じながら自分を表現しています。



大きなブランコに職員と乗り、揺れに大興奮! バギーから降りて身体を伸ばし、揺れを感じながら気持ち良いようです。

## 生活介護じねんじょ ひなた

活動の一つとして、クッキングをしています。今回は、「アメリカンチェリーのマフィン」を作りました。

食べやすい食形態、好きな物や、旬の食材は何かなど、利用者と職員で一緒に考えて、調べた物を、栄養士に相談して、安心、安全に実施できるように確認をしています。

作るものを決めると、使用する材料や道具、作り方などを、動画や写真を使って、イメージしてもらいやすいように配慮し、確認をします。

一緒に、材料の買い出しや、使用する道具の準備をしています。現在は、コロナウイルス感染症予防のため、利用者との買い物は控えています。普段は、材料の買い物も一緒に行っています。

当日は、「主体的に参加している」と感じてもらえるように、道具を握って一緒に混ぜたり、切ったりして実施しています。それぞれ、工程の役割分担をして美味しくできるようにできあがりしました。お茶も入れて、楽しまれており、笑顔が出ていました。



## 生活介護じねんじょ だいち

活動の一つである手芸について紹介します。手芸活動で人気なのがミシンです。職員の声掛けにより、ペダルのスイッチを、メンバーが手を動かし操作を行い縫っています。

今はマスク作りを主にしています。縫う・ゴムを通す・袋に入れるなど、役割を分けてメンバーみんなで協力して作っています。毎日こつこつとを目標に!!これからもいろいろな作品に取り組み、皆さんに披露出来る事を楽しみに日々励みたいで



## 児童発達支援事業 むくっこ

小麦粉ねんどが  
楽し〜い!!



寒天あそび!!  
冷たくて  
ぷるぷるしてるっ★

スイング  
楽し〜い!



ぼんの手型  
それ☆



パステル展!  
展示用作品制作♪

絵の具!!  
にゆるにゆるだ〜★



あじさいの花  
作品制作♪



七夕飾り☆  
お願いごとしたよ♡

皆でパル〜♪  
色がきれい♡  
風も気持ち良い♡



毎日お水  
あげるね♪

♡トマトさん、あさがおさん♡  
大きく育ってね!!

♪むくっこの今年度の活動紹介をします(^)♪

〜造形や触覚あそび  
で季節を感じ、大型遊  
具で体を思いっきり動  
かしました〜



## 放課後等デイサービス事業 むく

今回は、むくメンバー全員で作り上げた壁画「スイミー」をご紹介します。  
レオ=レオニの絵本「スイミー」、誰も一度は耳にしたことのあるお話だと思  
います。一匹だけ黒い魚「スイミー」が、赤い魚の仲間たちと力を合わせ、海  
で一番大きな魚のふりをして、天敵のマグロに立ち向かいます。読み聞かせ  
後に、何か力をもらい、励まされる、そんな絵本です。

この「スイミー」の絵本の中で、最も印象的なシーンを作品にしました。  
大判用紙4枚分の大きな台紙に、ローラーやスポンジで自由に色をのせ、メ  
ンバーの手形を小さな魚たちに見立て、いっぱい集めて大きな魚を作りまし  
た。小学生の可愛い小さな手から、高校生の力強い大きな手まで、みんな  
違う手形1つひとつに、メンバーの個性が表現されているように思います。

メンバー1人ひとり、得意なことやできる  
ことは違います。メンバーの得意なこと、できる  
ことを活かしながら、一つの作品を完成させ  
ました。絵本の「スイミー」のように、メン  
バーが自分にしかできない、自分だけの役割を地  
域の中で見つけ、たくましく生きていくことが  
できるよう、サポートしていきたいと思  
います。



## 居宅介護事業所ヘルパーステーション ふわり

ヘルパーステーションふわりは重症心身障害者(児)といわれる方のご自宅での生活をお支えしたいと設立されました。利用されるメンバーの大半は同一法人の通所事業所である、じねんじやむくに通う方ですが、ここ1~2年それ以外の地域の障害をもつ方にもヘルパーを派遣するようになりました。じねんじよ、むくに通うメンバーはご自宅でご家族と暮らしておられ、すべてのケアをご家族が行われています。しかし、さまざまな理由でご家族の介護が難しくなった時、ヘルパーを導入される方もおられます。在宅生活が少しでも長く安定し、また豊かであるようにと願い、入浴や外出など決まった場面でお手伝いをさせていただいてきました。

この度、通所事業所の利用者でない何人かの方々が、これまで通り家族のケアを受けることは難しいけれども、自宅で生活を続けるという選択をされました。家族のケアが難しくなる理由は、ご本人の加齢や心身の状態の変化、ご家族の介護力の低下や在り方の変化など、さまざまです。新しい生活スタイルを組み立てていくにあたって、お一人お一人が希望する暮らしを描き、相談員さんはじめ周囲の人に表現してくださいました。そして、それをどのように実現していくか、わたしたちヘルパーも一緒に考える機会をいただきました。今は生活が変わり始めたところではありますが、さまざまなサポートを受けることで、希望する暮らしの実現に少しずつ近づけることができるのではと感じています。

これまで、ふわりの職員は生活の基盤が安定しているメンバーのごく一部をお手伝いさせていただくばかりでした。今回、新しい生活を組み立てていく過程にご一緒させていただき、ヘルパーが訪問する時間の介護だけではなく、その方の生活全体を知りながら部分的にサポートさせていただくということを知りました。「生活をお支えする」ということをもう一度考え直すきっかけとなりました。

## 相談支援専門員の仕事 ~プランニング~

大地32号の「アセスメント」に続いて、今回は「プランニング」について私の感じていることを書こうと思います。

プランニングとは文字通りプランを作成する過程です。アセスメントから導き出された本人の夢(想い)をかたちにしていきます。相談支援専門員の研修では本人にとって支援プランとはいわば「人生の設計図」だと言われます。相談支援専門員には本人の想いに耳を傾けることが求められますが、自分の想いを言葉で語ることができる方ばかりではありません。

そのような時は、アセスメント同様にご家族をはじめ、これまで本人に関わってきた方たちからもお話をうかがう中で、本人が生活してきた歴史を丁寧に振り返り、本人が自分の人生をどう歩みたいと思っているのか思いを馳せるように心がけています。決してご家族や支援者の視点だけにならないように、支援者の困り感の解消のみを目的としたプランにならないように…そのように気をつけているつもりです。

これもまた研修で言われることですが、単に言葉選びだけを気をつけるのではなく、その人らしさがみえるプランになっているかどうか重要です。その人らしさがみえるプランとは、その人特有の人的資源や環境的資源を活かしているかだと思います。その意味では、既存の資源を活用するだけでなく、場合によっては新しい資源を開発していくことも必要になります。簡単なことではありませんが、本人のことについて共に考えてくれる仲間、場所を見つけ、「人生の設計図」を描けるよう心がけたいと思います。

## 「3密」に気をつけてといわれるコロナ

メンバーに必要な支援では、介助等で密接にかかわることが多いため、メンバーやメンバーの家族だけでなく、支援者やその家族の様子も気にかけています。また活動では、「窓を開けて風の通り道を作って」「ちょっと近すぎていないか」と声を掛け合いながら「3密」に気をつけるようにしています。

この数カ月、これまでの「日常」が中断され、誰もが経験したことのない不安な日々が続いています。まだ新型コロナウイルスの脅威が過ぎ去ったわけではありませんが、メンバーとご家族が少しでも安心した生活が送れるように、共に励まし合い、協力していければと思います。

金原院長(理事長)がかねはら小児科ニュース「すくすく」に新型コロナウイルスに関連した記事を書いておられますので同封いたします。ぜひ併せてご覧ください。

## もちつきの中止と今後について

毎年、下関西ライオンズクラブとの交流としてもちつきを行ってきました。毎年心待ちにしておりましたが、医療的ケアを必要とするメンバーは参加することが難しく、職員の付き添いの元、本体建物で過ごすメンバーも年々増えてきました。これらの状況から多くの皆様に参加いただき、もちつきイベントを継続していただいていたのですが、じねんじよ側の都合により継続的な開催が困難な状況となってきました。しかし、もちつきを長年開催していただき、年を重ねる度に下関西ライオンズクラブの皆様とメンバー、ご家族、職員の交流が深まり、折角深まった絆を続けていきたいということで、形を変えて継続することとなりました。

そこで職員皆で話し合い、考え、多くの意見が出ました。天候に左右されず、できるだけ多くのメンバーが楽しめるものとして、バルーンアート、音楽コンサート、ミュージカル、人形劇、大道芸等が候補にあがり、毎年違うものにする事となりました。時期としてはフェスティバルと一緒にすることになりましたが、今年度はコロナウイルスが流行っているため中止となりました。来年度より開催予定です。楽しみにしててください。

## 第18回アートビレッジ39パステル絵画展に出展

令和2年8月4日~9日の6日間下関市立美術館で開催

テーマ「つながり」



じねんじよのロゴマークです。障がいのあ  
るなしにかかわらず、全ての人がつながって、  
一緒に生きていることを表しています。



## 寄付者氏名 令和2年7月10日現在(順不同、敬称略)

岡田理 / やまぐち小児科 / 高崎龍子  
蒨田哲人 / 株式会社フタバ工芸社

ありがとうございました



## 編集後記

今号も各事業所の紹介、活動の様子、新規事業の進捗報告をさせていただきます。

私たちの生活も変わり、新型コロナウイルス感染症や他の感染症対策での予防を今まで以上に徹底する生活になりました。

外出等今までのようにできない生活ですが、日々の活動を通してメンバーが少しでも安心して過ごせる毎日になり、笑顔がより輝く支援ができるようにしていきたいです。